

TOPICS

1 「運転行動と習慣」



パネルディスカッションの様相

この後、下記の5名によるパネルディスカッションが行われた。山田氏は、全事業所に一人ずつ安全運転指導員という責任者を置き、社員への事故防止への意識を高める活動について述べた。

「悪い運転習慣を断ち切るには参加体験型の実践教育を受講することが効果的」。「日々の業務の中で起きる事故をなくすためには、社内への何らかの仕組みを設けることが必要」。「自分たちが走行する地域の交通実態に合わせて事故防止の戦略を考えることが重要」という意見が出されるなど、活発な討議の場となった。

8月6日、本田技研工業(株)和光ビル(埼玉県和光市)で「2010トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」が開催された(主催:交通安全教育センターレインボー埼玉・和光)。このフォーラムは、「運転行動と習慣」を取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われている。この日は96団体から295名が参加した。

開会にあたり、河野光彦(株)レインボーモーターズ代表取締役社長が挨拶。来賓を代表して田中栄一(埼玉県警察本部交通部部長)が挨拶を行った。

続いて、岸田孝弥・中京大学心理学部教授による講演。テーマは「運転行動と習慣」交通心理学的視点から考える。岸田氏は、「不注意」というのは原因ではなく結果であり、誰もが「不注意」な状態になる可能性を持っていると説明。慣れによる油断は禁物、注意力を保持するように心がけることが重要であり、特に抜け道を利用している時は事故と隣り合わせの状況であることを考えて運転してほしいと、参加者に訴えた。

また、市川氏が埼玉県内の交通事故の傾向を解説。さらに、渡部氏と山田氏が、それぞれ自社における安全運転活動を紹介。渡部氏は業務で使用する車両すべてにドライブレコーダーを導入し、そこから得られたデータに基づき、社員一人ひとりの運転のクセに合わせて上司がアドバイスをするという取り組みを発表した。

山田氏は、全事業所に一人ずつ安全運転指導員という責任者を置き、社員への事故防止への意識を高める活動について述べた。

山田美喜夫 生活協同組合連合会コープネット事業連合コープデリ宅配運営企画部車両運転指導企画担当

渡部悟志 三菱電機ビルテクノサービス(株)東京支社安全衛生推進部部長

岸田孝弥 中京大学心理学部教授

野村邦丸(株)文化放送編成局制作部専任部長



市川弘明 埼玉県警察本部交通部企画課課長補佐



山田美喜夫 生活協同組合連合会コープネット事業連合コープデリ宅配運営企画部車両運転指導企画担当



渡部悟志 三菱電機ビルテクノサービス(株)東京支社安全衛生推進部部長



岸田孝弥 中京大学心理学部教授



野村邦丸(株)文化放送編成局制作部専任部長

2 「交通安全体験セミナー2010」



「動画KYT」を活用した講習

10月5日、鈴鹿サーキット交通安全教育センター(三重県鈴鹿市)と名古屋商工会議所(愛知県名古屋市の2会場)で「交通安全体験セミナー2010」が開催された(主催:鈴鹿サーキット交通安全教育センター)。

同セミナーは、企業の経営者や安全運転管理者等にHondaならではの教育プログラムを体験してもらうことを目的に開催。名古屋会場では、Honda独自開発の「動画KYT」(3面参照)と、(財)国際交通安全学会が研究開発した「感情コントロール」を活用した講習が行われた。講師は、実際に企業研修を行うインストラクター。実践しながらのプログラムで進行するセミナーに、参加者は積極的に取り組んでいた。



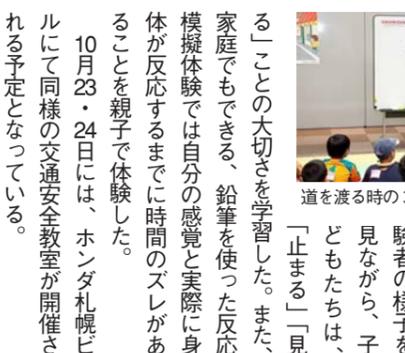
「感情コントロール」では、参加者がグループに分かれて意見交換を行う形式で進められた



見通しの悪い場所での飛び出しの危険を知らせる実験

「かるたや自転車シミュレーター」でルールを学ぶという展示体験、19日には「かるたで学ぼう交通安全体験ブース」を設けて協力した。

このイベントでは、「交通安全かるた教室」、「自転車シミュレーター教室」が行われた。「交通安全かるた教室」は、8月のイベントと同様、交通安全指導とかるた取りを実施。「飛び出しをしない」「右、左、右をきちんと確認してから横断歩道を渡る」「車の死角に入らない」など、基本的な交通ルールを子どもたちが楽しみながら学んだ。また、「自転車シミュレーター教室」では、参加者全員が自転車シミュレーターの体験を行い、他の体験者の走行映像を大きな



画面に投影した集合学習として実施。体験者の様子をしながら、子どもたちは、「見止まる」「見直る」などの大切さを学習した。また、家庭でもできる、鉛筆を使った反応模擬体験では自分の感覚と実際に身体が反応するまでに時間のズレがあることを親子で体験した。



参加者全員が自転車シミュレーターを体験

- 丸の内キッズフェスタや、福岡での交通安全教室の様子は、右記ホームページで詳しく紹介しています。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/event/report.html
- Honda交通安全かるたについては、右記ホームページで詳しく紹介しています。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/karuta/
- Honda自転車シミュレーターについては、右記ホームページで詳しく紹介しています。http://www.honda.co.jp/simulator/bicycle/

3 かるたや自転車シミュレーターで、子どもたちが楽しく交通ルールを学ぶ

8月17日から19日までの3日間にわたり東京国際フォーラム(東京都千代田区)で丸の内キッズフェスタ2010(東京国際フォーラム)で夏休みが開催された(主催:東京国際フォーラム)。「安全・安心みんなの東京」イベント会場(協力:東京都青少年・治安対策本部/警視庁/東京消防庁)では、Hondaも3日間

所での飛び出しの危険を知らせる実験や、かるたの読み札を使った交通ルールの確認が行われ、子どもたちが元気な声で交通ルールを確認した。また、かるた取りでは、子どもたちが多くの札を取ろうと盛り上がりを見せた。

9月4・5日の両日には、Honda福岡ビルにて、交通安全教室が開催された(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部、協力:小学館、協賛:Hondaカブズ福岡)。

NEWS REVIEW

●第42回全国白バイ安全運転競技大会 全国の白バイ隊員が高度な安全運転技能を競う



9月11日、12日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所(茨城県ひたちなか市)にて第42回全国白バイ安全運転競技大会(主催:警察庁)が開催された。この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和44年より毎年実施されている。今年は、47都道府県警察等から、女性隊員35名を含む188名の選手が参加。約3570人の観客が見守る中、バランス走行操縦競技、トライアル走行操縦競技、不整地走行操縦(モトクロス)競技、傾斜走行操縦(スラローム)競技の計4種目によって熱戦が繰り広げられた。主な結果は以下の通り。

茨城県、第3位/福岡県(第2部・38道府県警察等)優勝/島根県、第2位/愛媛県、第3位/長崎県

- 個人競技の部(男性の部)優勝/沼田行央(警視庁)(女性の部)優勝/佐野淳子(静岡県)
- 団体競技の部(第1部・9道府県警察)優勝/警視庁、第2位/

